

2022年度 高校1年 前期第2中間試験講評

現代国語（担当：黒川・大門）

今回の平均点は、55.48点と前回より、11点ほど下がってしまいました。テキストや漢字など、しっかりと取り組まなければならなかった所をおろそかにしている人が多かったように思います。前もって、しっかりと取り組み、確実に点数を取っていきましょう。また、授業中にしっかりと考えることも、点数を取るためには必要です。日々の授業でも受け身の姿勢でいるのではなく、積極的に問題に取り組み、たくさんの方のことを考えて欲しいと思います。

夏休み明けの実力テストには、夏休みの宿題からも出題します。夏休み中に、しっかりと取り組み、自分の点数のプラスにできるような勉強をしていってください。

言語文化（担当：加藤・内藤・渡辺早苗・井上誠）

平均点は53.77点と、前回に比べて大きく落ちました。前回の講評にこう書いています。「今回の文法事項の範囲とした用言の活用は、今後の文法学習においても基礎となるものです。この時期から取りこぼしていると今後の授業やテストにも支障をきたします。復習をして身につけてください。」。この通りになったと思います。今後の古典の授業およびテスト（模試、大学入試を含む）は、今回の内容を理解しなければ「絶対に」分からなくなります。復習のためのプリントは手元にあると思います。夏で助動詞までは完璧に理解してください。

次の実力テストから講読と文法に分かれずに「言語文化」のテストになります（ただし、実力テストは現代の国語と合わせてのため、言語文化は50点分）。範囲はありませんが、評価に入ります。内容は古文・漢文の読解となります（文法問題も含む）ので、古文は用言・助動詞、漢文は置き字・返読文字・再読文字は最低限マスターして臨んでください。

数学（担当：秋山・石本・鈴木）

内進生（A・B・C組：担当：石本、秋山）

条件付き確率、期待値、整数問題、合同式が範囲でした。いずれも大学入試問題の分野では主流となる分野ではありませんが、しっかりと身につけて確実に解かなければいけない分野です。解法も決まっており、取り組みやすい問題です。まず、定義や解法の原理、数学的な見方・考え方を理解することが大切です。何をもちいて条件付き確率というのか。どの事象の確率を求めているのかななどの定義や数学的な見方・考え方、基本の解法をしっかりと身につけることです。基本の解法を身につけることはそれに合った問題しか解けないという人がいますが、それは違います。出題された問題を身につけた解法に何とか結び付けて考えるようにするはずで、基本的な解法が使えるからこそ応用問題に対応することが出来るのです。我々は身につけた解法でしか問題を解くことが出来ません。身につけた解法に何とか結び付けて解くことを「帰着させる」と言います。帰着させるために、基本の解法を身につけるのです。

高校入学生D組（担当：鈴木）

数学Iは第3章の第3節2次方程式と2次不等式、第2章集合と命題、数学Aは第1章の第1節場合の数からと出題しました。範囲が広いので、問題集のSTEP AおよびBレベルの問題を多く、発展レベルの問題を少なくしました。「場合の数は、問題集で練習を繰り返して慣れていないと、基本的な問題でも迷って

試験時間が足りなくなる。」と事前に注意していました。おそらく、点数を稼ぐべき基本問題で時間がかかり、後半の問題をじっくり考えて解答できなかったと予想されます。

最近の共通テストでは、多くの受験生が解答の時間が足りない傾向があります。各問題前半の基本を時間かけずに解き、後半にどれだけ時間をかけられるかが、高得点の条件です。そのためにも問題集Bレベルを100%理解することの重要性を忘れないでもらいたい。

高校入学生E組（担当：秋山）

数学I「集合と命題」、数学A「場合の数と確率」と範囲が広がったことから基本的な問題を出題しました。特に場合の数に関しては積の法則、和の法則や順列、円順列、組合せ、同じものを含む順列、重複を許す組合せなどしっかりと区別ができることが大切です。問題文を読んで何をを使うか、分類できないと問題を解くことはできません。学問の基本は分類です。問題がどの分野の問題なのか、はっきりと区別できないといけません。そしてこれを土台にして「確率」を求めていきます。「確率」を苦手分野にしている人がいますが、その人は定義や基本的な見方・考え方がしっかりと身につけていない人です。「確率」は0以上1以下の値ですから、計算で間違えることは少ないはずで、「確率」を得意分野にするためにも基礎・基本の徹底を図ることです。

歴史総合（担当：酒井）

今回の平均点は68.8点。課題プリントの内容を中心に、大学入試共通テストを意識して作問しました。19世紀を概観し、日本の開国にいたる周辺諸国との結びつきを考えることが、今回のポイントです。前半は良くできていましたが、「アジアの植民地化」の内容で、勉強量の差が得点の差となってあらわれました。アジアや日本の範囲で漢字の間違いも多い人は、試験前の勉強方法を少し見直して下さい。

論述問題は今回も、空欄が少なかった印象です。単に語句の暗記にとどまらず、図や史料を見て判断したり、説明を通して自分の知っていることを「表現する」ことが入試では求められてきます。『暗記の向こう側』を意識して学習することは再度伝えておきたいと思います。今回は「明治維新」から、最低限「日露戦争」までは進みます。

地理総合（担当：両角）

平均点は77点でした。問題は、応用的要素の少ない基礎的、というよりは授業で扱ったものをストレートに出題しました。理解していた人には簡単と感じたと思います。90点以上の人も多数おりましたが、全員がそうでなかったところに少し考えることもあるかと思います。平均点が高くてよかったと思っていますが、一つ気になるのは、いろいろな面で「差」がついてきたように感じます。クラス間でもありますし、クラス内でも拡大しているように思われます。わからないところをそのままに置いてテスト前の暗記だけで対応しようとしてもなかなか大変です。授業で理解できるよう頑張りましょう。また、たとえ今回の点数が低くてもコツコツ勉強している人もいます。今、簡単に結果につながらなくても今後も努力を続けてほしいと思います。

公共（担当：坂本、鈴木昭）

心理学や思想についての学び、民主政治のしくみをおもに出題しました。平均点は予想通りでしたが、思っていたよりも、思想や心理学について興味をわかしてくれた生徒が多くみられました。ここの内容は、得点というよりも、これから生きていく上での学びですので、この内容に関心をもてたことは、得点以

上に大きな意味があるといえます。記憶することが苦手な生徒もいますが、思想や心理自体は、これからも興味をもって学び続けてください。成長するにつれて、さらに見方も変わり、深まるものです。これから授業は政治に入りますが、折に触れて思想に触れながら進めていこうと思います。

生物基礎（担当：松林）

今回の試験は「エネルギーと代謝」から「遺伝情報とDNA」までが試験範囲で、平均点は60.4点でした。毎度のことですが、皆さんにお配りしてある問題集（リードα）からそっくりそのまま出題している問題が今回は2問ありました（配点14点+21点=35点）この35点を多いと見るか、少ないとみるかは人それぞれですが、今回の試験の赤点のラインは60.2点×0.6=36.2点です。リードαをしっかりと解き終えてから試験を受けると、すべての人にとって良いことがあると思うのですが…。

次の試験範囲は「遺伝情報の複製と分配」からとなります。中学校で学習した体細胞分裂をしっかりと復習し、リードαを解き終えてから試験に臨んで下さい。

物理基礎（担当：佐藤・若林）

今回の試験は「落体の運動」「放物運動」「力のつり合い」からの出題でした。平均点は47.8点となりました。応用問題からの出題もなく、特に試験範囲が広がったというわけでもなかったということを考えると、かなり厳しい結果になったように思います。

また、今回の試験で平均点の60%に達しなかった人は全受験者126名中25人となり、前回の14人からほぼ倍になりました。前回の試験でも学習内容を十分に理解できていない人が多くいたことが懸念されましたが、今回はその傾向がより顕著になり、大変心配されるところです。

今回出題された内容も前回同様、これからの学習の基礎にあたる部分であり、今回の内容への理解が十分でない今後の学習にも大きな影響がおよびます。前期末試験で扱う内容はこれまでの2回の出題分野を理解していないと十分に理解することができません。また、放物運動や力のつり合いなどは基本問題として入試でも多く出題されています。

この点を十分に踏まえ、今回厳しい結果に終わった人は特に、試験を徹底的に復習するなどして出題分野の完璧な理解に努めて下さい。

英語

内進生（A・B・C組）

英語コミュニケーション（担当：宇佐見・秋元）

授業はAdvanced CourseとStandard Courseに分かれて行っていますが、試験問題は同じものを出題しているのは前回同様です。昨年度からの継続で「NEW TREASURE3」を活用しながら、文法の最終段階である、比較・強調・否定・倒置が今回の範囲となりました。応用構文ばかりで、特にスタンダードの諸君には難しかったと思われます。野球に喩えれば、ストレートを投げられないのに、フォークボールやナックルを投げろと言っているようなものです。でもスタンダードの平均点は前回よりわずかに上がっています。これは、授業中の集中力が改善されてきたからでしょう。今後も更に授業態度を良くして欲しいものです。

一方、アドバンスクラスは残念ながら大幅ダウンしました。原因は一人一人が胸に手を当てて考えてみてください。平均点は60点満点で38.0（前回は39.9）点となりました。教科書からの出題がほとんどでしたが、復習が追いついてない生徒は得点を重ねることができずにいます。日々の授業の姿勢がテストの得点と直結します。そこを忘れずに日々の授業に真摯に向き合ってください。また高得点者はそ

の結果に満足することなく、常に自分の実力を磨くことを忘れずに、日々の学習を重ねてください。反省の第一歩として、ベル着席（本鈴ではなく予鈴で！）を心掛けましょう。

英語論理・表現（担当：品田・秋元）

英語コミュニケーションと同様に授業はAdvanced CourseとStandard Courseに分かれて行っていますが、前回同様、試験問題は同じものを出題しています。英語論理・表現40点分の平均点は23.13点でした。25点～29点が16名で一番人数が多かったのですが、35点から40点も10名いました。しかし、上位層は前回より5名減っています。授業で使用しているワークブックの中から出題しましたので、しっかりと復習していれば、9割以上は十分可能なはずで

今回の試験範囲は、「文型」「時制」「現在完了」がテーマでした。「文型」については前回述べた通り、これから読むことになる複雑な構造の文を正確に理解するため、そしてどんな長い複雑な文でも頭からまとりごと理解していくことができるようにするための「道具」であり、非常に重要です。また「時制」や「現在完了」は共に、日本人の苦手な動詞の形に関する規則であり、正確な運用能力を求められます。スラスラと英文が口をついて出てくるまで、理解が不十分な生徒は今のうちに復習し、幾つかの例文を暗唱しておいてください。

高校入学生D組（担当：宇佐見）

今回のテストも、D組とE組は前回同様に同じ学習範囲、出題内容としました。平均点は63.1点となり、前回より3点ほど下がりましたが、出題内容が前回より難しくなったことを考えると順当な結果かと思われます。ただ授業の復習をまったく行わず、怠惰な学習姿勢が大きく点数に反映されている生徒もおります。英語力があるかどうかという問題ではなく、真摯に授業やその復習に取り組んだかどうか問われるのが中間テストになります。9月に行われる前期末テストに向け、日々の積み重ねを怠らないよう心掛けてください。夏休み明けの実力テストも出題範囲のある程度明示いたします。この夏休みの日々の努力を期待しております。

高校入学生E組（担当：宇佐見）

今回のテストも、D組とE組は前回同様に同じ学習範囲、出題内容としました。平均点は83.0点と、前回同様に高得点となりました。授業の復習への意欲、意識が高く、多くの生徒はそのまま点数に反映されています。この姿勢をこのまま継続してください。

夏休み明けの実力テストは高校1学年共通の問題となります。今持てる力をすべて発揮できるよう、しっかりと夏の日々を過ごしてください。いい夏になること期待しています。

英会話（担当：ナタリー・フェルミン）

平均点は69.94点でした。答えを決める前に、会話や文章全体を読んでください。たとえば、「In summer, we sometimes eat _____. It's nice to be in nature.」では、多くの生徒が「eat - 食べる」だけを読んで「organic - オーガニック」に決めました。しかし、主な手がかりは、「outdoors - 屋外」を意味する「be in nature - 自然の中にいる」ことでした。同様に、「Do you know Yuki? / Yeah, I know ____ from school. He sits next to me.」では、多くの学生が「Yuki」という名前を唯一の文脈としてとらえ、「her」と書きました。ただし、「Yuki - ゆうき」は次の文では「He sits...」と書かれています。